

入賞作品

一般實話

人

吾が郷土の道路愛

福岡縣久留米市國分町日隈一九二六

永田良行

昔の人が「道は路なり」といつて、道徳は道路の様に人の往き來して暫しも離るゝことの出来ない大切なものであるといふことを教へましたが、吾々はその他面に道路こそ大切なものであるといふことを悟らなければなりません。

然るに世の所謂大恩忘却が道路に冷淡の風潮をなして居ることは實際遺憾に堪えぬ所ですが、又大きく民族的

責任の一端を痛感せずには居られません。

然して吾が郷土は知つてか知らずでか、遠き祖先にその端を發して、傳統的に道路關心が豊かに養はれ、「道は路なり」を逆に「路は道なり」即ち道路に關することこそ道徳であるといふ位に迄愛護改良の努力を盡して來てゐることを思ふ時、この歴史を擔ふ吾々は非常な、内には感謝の念と外には優越の感とを味はずには過されません。

吾等の最も誇りとする所は、一に永久性のあること、二に自治共存體であることにつくされます。舊幕時代から年中行事の一つとなつて居つて一度でも缺かしたことの無い所に一貫の美があると信じてゐます。それから吾がH郷はK市の郊外に位して直ちに田舎に續くことだから、その人情節義は宛ら一郷一家の觀があつて自治共存を唯一のモットーとしてゐるのが、横に統一の美點であると信じてゐま

す。以下如上の歴史的背景を持つてゐる吾が郷土の道路に
ついて現在愛護改善してゐる大要を記録することに致しま
せう。

一、目的 共存共榮の見地に立ち一郷福利の増進苦樂共同
の精神と社會奉仕の精神とに基く。(之は申す迄もないこ
とですが祖先以來慣習道徳として守られて來てゐる)こ
ゝに心の一致といふ強みがあるわけです。

二、歴史的發展 始め僅かの祖先と大凡必要とせる作道の
修理改善に努めて來ましたが、郷員の増加と愛護精神の
自覺に伴つて數十町の作道と縣市道へと發展し、計畫が
組織的となつて參りました。

三、實況

(一) 期 日 定期と臨時

定期 毎年春秋二回春は田植前、秋は取入れ前(其の
後愛護デーに充當)。共に町總代の指令を待つて行ひ
ます。

臨時 機に臨み變に應じて動議を起し決定致します。

入賞作品

(例へば暴風雨後の如し)

(二) 組織 二班に分れ一は男員(一戸一人制)と二は
主婦會員。

(三) 作業 總員六十名道具携帯午前八時集合、町總代
の指令を待つて區劃と人員、力柄に應じて組織編成計
畫を綿密に致します。町總代の訓辭終るや直ちに開始
午後五時終了。仕事は掃除、除草、伐採、溝さらひ、
障害除去、石垣構築橋梁修理等です。

(四) 慰勞會 會食(夕餉)を共にし、今日の成績を批
判し感想を發表して向後の參考と致します。

附 出不足男一圓女代用は三十錢(口賃平均)は合意
の上自發的に會食の資に充てます(未だ弊害を認め
ません)。

四、効果 道路を改良修理して効果が無いといふことはあ
りませんが、只それが食べておいしいものゝ様に直ちに
それだけきゝめが認められないのが普通であるといふ迄
で、よくよく考へてみると非常な効果を収めてゐるとい

ふことが肯かれて參ります。

第一に最小限度に認めらるゝとしても、氣持の上に「はあ！ 立派になつたなあ」といふ快い感じは誰にでも氣附かれることで、そこに整へられた自然の中に生きることゝ於てどれ位よい影響を知らずの裡に受けてゐる事か、それは環境がその人の天分に影響すること甚大にして、識者間に重要視される一事を以てしてもわかることと思ひます。情操陶冶もそういふ所から産れてくるに違ひないと考へられます。

又實際汗水流して草を引き鋤をとつた後を見た時に感ずる言ひしれぬ喜びは恐らく實驗した人にのみ味はひ得る特權ではないでせうか。そうした心の内には利害を超越した勤勞の快さや、義務としてやるだけやつたといふ満足感や、社會奉仕になるのだといふ安心等色々々の感じが勃然として湧いて來るのを禁ずることが出來ません。時々通行人が感心の聲を洩らして通る時には更にその意を強ふる次第です。

第二に實利の上から、之は普通直接の效果として第一に考へねばなりません。現在特別車を挽くの難澁しない時には何ともないが、一旦道路が破壊してゐたり草がおひ繁つたりしてゐる時の事を考へると、實感した者にとつては本當に道路の有難さがしみじみわかつてくるものです。何とも感じない時には餘り便利がよ過ぎて忘れてゐるのだ」とは皆口を揃へて述べる所です。

第三に排水施設を完備してゐる爲に豪雨の際でも氾濫することなく、又従つて

第四に蚊の發生を直接少くしてゐる得點があります。只蚊の出る現象にのみ氣をとられる者多くして、その原因が道路改良の時にあることを類推しかねるのが人の常ですが「蒔かぬ種は生えぬ」とはもつともな事だと思はれます。

第五に衛生方面から言ふても非常によいことは申す迄もありません。

最後に擧げたい事は特筆大書すべき事で寧ろ第一から第五迄の上位に置かるべきことですが、それは

精神的收穫 即ち懇親融和の機會が遺憾なく與へられることとござぬます。外の時に全郷會合する場合もありますが共に歛とり身に汗しながら老若男女が語り合ふその時に受ける感化影響は實にかへがたい力を以て人を圓滿になして行くものです。吾が郷土が全郷擧げてこの事に當つてゐるわけとござぬます。一面其の日は社會教育日の様な感じが致します。そこには何らの見榮も包みもない全く赤裸々な姿になつて働く、何といふ美しい情景でせう。お互に知つた仲間と同じ仕事を協同する。一人が草をとれば他が運ぶおばあさんのざるを青年が助勢する、何といふ愛情でせう。たまに罪のない馬鹿話が出る、命の洗濯である。そこに改良せられたものは單に道路だけではなくして、見逃がすことの出來ぬ精神内容が融和といふことに於て改良せられてゐることを喜ぶのでござぬます。

かういふことが契機となつて郷土愛や引いては皇國愛になつてくるものではないかと思はれます。更にお互の手でなした夕食を共にして一日の勞をとる。この團欒和合他に勝る効果もありますまい。幸に吾が郷土が自讃ではありませんが統一の點に於ては自信をもつて居りますことも、一つには道路愛護が齎す効果に負ふ所が甚大であるのをどうしても否定することは出來ません。

道路關心は社會奉仕の第一歩であるといつても敢えて過言ではないと思ひますが、その反對に之に對する世人の無關心は正しく事實であるといふことも又敢えて過言ではないかと考へられます。願はくは「道路愛護は口より手先」を自誠としてお互に社會人として意義あらんことを誓ふ次第とござぬます。

× × ×

後悔先に立たず

東京市牛込區天神町七七倉持靜方

荒井 純

千葉縣某町から乗合自動車で改良道路を行くこと約三十分、やがて名にし負ふ大利根にさしかゝるが、さて今はこの大利根も道路改良後は渡船作業も便利になり、トラツクといへ乗合自動車といへ、改良道路からストツプなしに待構へてゐる發動船の中に除行そのまゝ乗客ごとすらくんとすべり込める。だが私はこゝで單にこの道路改良による渡船作業の至便のみを語るのではない。それはこの至便の町村に近接せる改良せられない某數箇村と改良せられた以上の村とを比較して、如何に道路改良が吾々現代人の生活にとつて、はたまた農村更生の塞源的經濟問題と密接な關係があるものなるかを事實によつて語らうと思ふ。といふのは外でもない。今前に述べた自動車で利根を渡つてから數

分、某村立小學校前で降りてから改良道路を歩行すること十分程し給へ。すると誰しもこの改良道路の行方に不審を抱くであらう。といふのはこの改良道路が左右二又のところへ差かゝると、右の方へ一寸首をかしげたまゝそこでこの道路の改良は終點——その先は約六尺の舊道となつてゐる。そしてそれはもう十年來のことであつて、私が語らうとするのはこの事實から來る農村更生と經濟生活なのだ。

▲一體改良道路が何故此所で首を傾げたか。

どこの田舎でも同じことだが農村には舊來の現状維持をもつて満足しやうとする習慣がある。一面これは長所でもあるがまた短所でもある。従つて飛躍に對して躊躇する。

この數箇村も正しくそれであつて、道路改良の計畫なるや舉つて改良大反對をしたものだ。その理由とするところは多多あらうが主なものとしては、道路の幅が廣くなることにより田畑が削減される。交通機關の往來頻繁となつてそのほどばしりあげる塵埃によつて農作物の不作を招く。文化の流入により農村經濟の消費を倍加す。といふやうなこ

とであつた。

ところが現在此等の理由は果して効果的であつたか

今や村民達は後悔先に立たずの譬に御多分に漏れずたゞ改良せられた村を見て自分達の過去の愚をかこつのみである。といふのはこの邊の農家は現在では副業とはいへ、や

がて本業化するまでに伸展して來た野菜の栽培に力を入れて來た。そして之等野菜の捌け口といふのが東京を主としてその他の市や町である。夏は西瓜その他の瓜類、秋は

菜・牛蒡・人蔘・大根・春は葱・芹。さて之等を遠隔の地まで運び出すにはどうしても貨物自動車でなければならぬ。ところが道路は自動車を入れるには餘に不便であ

る。したがつて野菜は荷車に積んで一里二里と貨物自動車のあるところまで運び。再び自動車を積み換へをする。その間野菜は傷む。不便の努力は倍加する。自動車と荷車との時間の待合せに焦慮する。ところが改良せられた村ではそんな不便はない。改良道路に沿ふた畑を夏冬かけて野菜畑とした。で菜ができた西瓜が出来たとなれば、これらの

村ではどんどん貨物自動車を畑に横付けさせて積み入れる。際物である。傷めないやうに新鮮な野菜を相場を見て敏速に送り出す。だから前者と後者の間に收入の上で大きな開きが出来てくる。とても競争にならない。

一刻を争ふ際物である。一刻を争ふ相場である。

今にして道路改良の急務を知つた村民達は他を見てはじめて覺つたのである。

勿論この村にも自動車が全然入らぬといふのではない。けれども私は幾度か自動車が動かなくなつてロープで引いてゐたり、折角積んだ荷を降ろして大勢の村民がコロで自動車を動かしてゐるのを見てゐる。そればかりではない。つい此間のことさる由緒のある地主さんの娘さんが、今日を嬉し恥かしと晴れの自動車花嫁道中、自動車が狭い道路の溝に車輪をはめこんでしまつて、どうしても動かない。運轉手は一里半もある町までお客をおいてきばりにロープを取りに行くといふ騒ぎ。さあ大變なのは花嫁さん、とう／＼鬱つてしまつて／＼怒り出す。花婿殿もきまり悪

さうに自動車の中から畑際へ降り立つて手持無沙汰、何と氣の毒にとは私ばかりではない。居合せた子供達までが變な顔付でまはりへ立寄つてくる。ところがこの父といふのが例の道路改良に反對の委員の一人であつたとは奇なめぐり合せもあるものである。だから自動車といふ自動車は此の邊の村へ來ることを喜ばない。強ひて頼めば道路が悪いのを理由に運賃を高くする。したがつて、時に野菜の賣上高より運賃の方が高いといつた賃銀倒れをすることがある。でこの邊の村民達はかう言つてゐる。

「金儲けは××村の人にはかなはない。道がいゝから」

「さうよ、何積み出すたつて貨物自動車で便利だからなあ」

「俺が村だつてあの時あんなへまさへしなけりやこの前通りだつて改良せられたものを」

村民は今盛んにそんなことを言つてゐる。けれどもあの首を傾げた改良道路はもうこの村へは伸展して來ないのだらうか。逸すべからざるは時機——今現にこの村では、農

村更生は先づ道路からの題目のもとに道路改良に専念とか。歸省の度毎聞かされる事實物語。

道路改良の効果

宮崎縣鹽土木課

富 永 武 雄

一、道路改良のお蔭で年々其の改良工費と同じ額の經濟上の利益がある様になつた實例。

茲に私は道路改良の結果、其の工事に費した五十萬圓の工費に匹敵する利益が年々關係地方を潤してゐると云ふ實狀を紹介する次第であるが、由來、道路は吾々の生活と頗る密接不可分の關係にあるが故に比較的關心をひかない。恰度毎日戴いてゐる御飯は「有難い」と云ふ氣持が薄いのと同じであらう。つまり慣れると云ふことが人間の感謝の心を殺ぐのである。しかしながら道路は恰も人體の動脈であり、道路を利用する各種の文化機關は之を流れる榮養であ

る。道路交通の良否は直に關係地方の盛衰を意味し、文化の尺度を知り得るのである。歩行道が車道となり砂利道となり舗装道路となる様に文化の進展と共に道路の改良は際限もなく必要とせられるであらう「良き村に良き道」と云ふ標語の適切さを味ひながら、極めて拙劣な比較論を掲げて道路の功徳を讃仰する次第である。

× ×

場所は宮崎縣西舊杵郡地内、府縣道宮崎熊本線、古代神話に富む高千穂町より七折村に至る。延長一萬二千三百五米の區間である。

此の區間は、昔のまゝの道路を部分的に改良されたものであつたため、至る處に急坂と急カーブがあり最も難道とせられてゐた。之に代るべき新道は、五ヶ瀬川の上流溪谷に沿ふ巍峨たる峽腹を縫つて、工費四十九萬五千九百五十二圓道路工事としては稀に見る難工事であつた。

數十丈の垂直をなす斷崖に、體をロープに結び付けて作業をしてゐた人々の姿や、爆裂する柱狀の岩石が、百雷の

音を立て、谷間に崩れ落ちる有様などが、今尙怪髣髴として聯想さるゝのである。この工事は約二ヶ年の日子を費して昭和六年九月竣工した。總てを現代道路の規格に、隧道もあり橋梁もある仰げば幾十丈を算するであらう丘上の松林や峽谷の紅葉を賞つてドライブも出來様と云ふ。此の山中には惜しい程の立派な道路である。即ち縣下有數の難道であつた本線もこの工事に依つて畫期的な働をなす様になつたのである。關係者や地方民が涙をこぼして喜んだのも無理からぬことであらう。

× ×

然らば此の道路改良工事に依つて、一體何の位の利益が齎らされるに至つたか、先づ道路改良前後に於ける、貨客輸送の比較から述べて見やう。

改良前に於ける乗用自動車は七人乗りの小型で定期運轉回数は僅かに十一往復であつた。又貨物自動車に至つては、定期的なものはなく僅かに數臺の小型自動車が、延岡高千穂間を不定期に運行すると云ふ程度で、積載量も辛ふ

じて一廂内外であつた。從而日用雜貨生産物等の運搬は殆んど荷馬車に依ると云ふありさまであつたから運賃の如きも頗る高く、延岡から高千穂まで乗客一名の賃金は二圓五十錢、貨物一廂の運賃二十圓と云ふ狀況で、利用者も至つて少かつたのである。

處が、道路改良後、自動車運輸事業は急速に發達し、現在に於ては定期乗合自動車だけでも往復六十回を算する狀況である。殊に最近は大形バスも運轉さるゝ様になり、交通は益々至便になりつゝあるのであるが、貨物自動車も之に比例して、一躍二廂半を積む様になり、一日二十臺乃至三十臺の運行を見るに至つた。

如斯自動車に依る交通運輸事業が發達した所以のものは他にも色々の理由があり、原因があるのであらうけれども其の根本をなすものは即ち「道路の改良」である。

されば貨客共に、其の運賃に於て、非常な低下を示し、現在は、延岡高千穂間乗客一人の賃金僅かに一圓と云ふ、改良前の半額に満たぬ低率となり貨物一廂の運賃も亦改良

前の三分の一にも足らぬ六圓内外と云ふことゝなつた。

之等運賃の低下に依る利益額は何の位になるかと云ふと、昭和八年度調査に依る本線の交通量は乗用自動車一日平均四十臺、貨物自動車二十臺である。現在の交通量は、凡そ此の倍數にも達するであらうが、此處では右の基礎數に依つて算出して見やう。

今假りに延岡高千穂間の乗客を自動車一臺に付五人平均とすれば、一日二百人一ケ年七萬三千人、この人々は改良前の運賃から比較すると一圓五十錢宛を儲けてゐると同様であるから、此の一ケ年の利益總額は、十萬九千五百圓と云ふ大した金額となるのである。

更に亦貨物自動車に付て考へるに、改良前一廂二十圓の運賃が、改良後は一廂六圓となつたのであるから、一廂に付十四圓の運賃が輕減されたことゝなる。故に一日に二十臺の貨物自動車に、平均二廂づゝを運搬するとしたならば一日に四十廂、一ケ年一萬四千六百廂の出入物資に付ては二十萬四千四百圓と云ふ、實に莫大な運賃が輕減されてゐ

るのである。

之等、運賃の低下は、直接には自動車利用者の利益とするところであるが、延いては生産者乃至需用者の利得となるのであつて、結局一般公衆が、利したこととなるのである。

一例を挙げれば

此の地方は畜産が盛んである。例年糶市に於て取扱れる「仔馬」又は「犢」の数は、二萬頭に近い。従來之等を延岡、熊本地方まで搬出するのに、人夫一名にて三頭をひき、三日間の日子と約十五圓の費用を費したのであるが、道路改良後、大型貨物自動車が運轉され優に一臺十頭を積み數時間の内に搬出し得るのである。然も其の運賃は十五圓で足るのであるから、牛馬一頭の搬出費に於て、實に三圓五十錢と云ふ低減を見た譯である。

之等は取りも直さず、取引價格に影響し、何人かゞ利することとなるのであるが、先づ生産者側の利益が最も大きいと見なければなるまい。之と同様に運賃の低下は、他の

總ての生産品乃至日用品の價格の上に利益的効果を齎らしてゐる譯であるから、貨物の運賃低下に依る利益は結局一般公衆の利益と云ふことが出来るのである。

其の他自動車運輸事業者はガソリン節減に依る利益二萬二千八百圓、觀光客を相手とする宿屋土産品商等の受くる收益二萬一千六百圓等々、尙ほ仔細に検討したならば、多くの實例を挙げ得るのであるが、以上述べた丈けでも、年額三十九萬七千九百圓となるのである。之は昭和八年度調査の交通量に依る計算であるから之を現在の交通量から計算したならば、其の利益額は優に改良工費の五十萬圓を突破すると見て差支へないであらう。

要するに道路が改良されることは、交通運輸事業の促進に資することであり、之に依つて以上の様な利益を齎らすこととなるのであるが、然も之は單に一部の經濟的利益であつて、更に之を政治的に、或は軍事上より且又學事衛生等の方面より輸入文化の精神上に及ぼせる各種の効果を考慮に入れんか、蓋し其の利益は、百萬圓千萬圓の金にも代

へ難きものがあるであらう。

×

×

因に此の地方は、古代日向の誇り、天孫降臨の傳説地である。紅葉の名所溪谷の奇勝として知らるゝ幽邃の境地、高千穂峽があり。

觀光地としても適してゐる、此の道路の開鑿に依つて此地は愈々光彩あるものとなつた。

今や地方農山村が、疲弊の苦盃をなめつゝある時、ひとり此の地方が觀光と産業兩立して着々と更生の實を擧げつゝあるもの、實に吾等の意を強ふする次第である、敢て附記して筆を擱く。

道路改良實話

兵庫縣美方郡温泉小學校訓導
同縣同郡温泉少年赤十字團主任

荒 瀧 昇

私は此の學校に昭和四年四月奉職して來ました。爾來温

泉少年團主任として、可憐な團員と一緒に社會奉仕の事に小さい力をさゝげて來ました。社會奉仕事業の中で道路愛護及びこれが改良方面は、私達の最も力を入れて居る仕事であります。學校の所在地たる但馬地方は本當に山の中で御座居まして、總ての事共に不便を感ずるのであります。特に交通の便が悪うござります。その一大原因は町方の様な道らしい道が無いからだと思ひます。私の此の學校に奉職して來ました當時は、全村の方々の骨折りによりまして相當立派な道も見る事が出來ましたが、而しこれは一二であつて、随分ひどい道が其處此處に澤山ありました。村の方々、小學校の兒童は勿論、一般通行人の方々皆この悪い道の爲に苦まれた事です。當時私は岸本少年團長と、相談しまして、道路愛護の精神を村中の方々一人残らずもつて貰う様にするため道路愛護の意味を記した標柱を道ばたに建てる様にいたしました。村内の要所要所には大標柱（十五纏四角長さ二米ペンキ塗仕立）、その間々に小標柱（大標柱の半分大）を總計六十四本建てたのです。これ

は勿論團員の手で製し團員の手で建てたのです。記載標語は團員のつくつたものを主としましたが此處に一二を書いで見ますと、

一、道路と心はいつもきれいに

一、人の心も道路で知れる

一、村の發展も道路から

一、道路愛護は吾等の鉄で

等約十種類程であります。村の方々から間もなく、ほう温泉の少年團は仲々えゝ事をやつて呉れるだあないか、うら達もちいたあ元氣ださあぜ」などの言葉を聞く様になりました。温泉場であるこの村は入湯客が相當あるのですが、この標柱はそれ等の方々の目をどんなにか引いた事です。

その後私達は標柱記載の標語の通り、先づ自分達で道路愛護の鉄を握ることにいたしました。毎週水金の兩日、早朝から全團員各部落に分れて約一時間宛（登校前）道路愛護作業をなすのです。小學校の小さな兒童です。一時に目

に見える様な大きな作業は出来ません。而し私は早朝、はるかに皇居を拜して、愛兒達と共に、あらんかぎりの力を出して土を運ぶことや、地平し、石運び、鉄を振りあげることは、本當にたのしいことであります。春夏秋冬せつせと働いて居る彼等は、きつと立派な日本人になると私は信じて居ります。

この道路愛護作業を昭和四年度から、づつと本年まで續けて来て居ます。別に自慢するほど道が立派になつたといふではありませんが、私は子供達を褒めさして頂きたいのです。私は少年團員を褒めてやつて頂きたいです。

「あなた達の手でこんなにも道が立派になつた村の方々
が毎日感謝しつゝどんなにか利益をうけて居られるだらう」と。

現在では、村の婦人會、男女青年團の方々の共力も得まして、往年の悪い路がすつかり、氣持のよい道となつて居ます。交通の上にも又諸車の荷物運搬等の上に非常な利便を齎して居ります。昭和九年九月一日の關西大風水害は、吾々

少年團員の丹精こめた道をすつかりこわして仕舞ひました。而して今では又元の立派な道に復して、毎週二回の奉仕日に全團員が前より以上立派になる様努力いたして居ります。尙吾が温泉少年團は兵庫縣道路愛護共進會に加入（昭和四年以來）連年入賞、縣知事より左記の通り表彰されて居ります。

年 度	等 級	縣 知 事
昭和四年度	四 等 賞	高 橋 守 雄
〃 五年度	四 等 賞	岡 正 雄
〃 六年度	四 等 賞	白 根 竹 介
〃 七年度	四 等 賞	白 根 竹 介
〃 八年度	四 等 賞	白 根 竹 介
〃 九年度	四 等 賞	湯 澤 三 千 男
〃 十年度	貳 等 賞	岡 田 周 造

其他よりの表彰

温泉町長田中壯太郎殿より數回表彰さる

濱坂警察署長殿より表彰さる

道路愛護狀況寫眞雜誌に所載さる

（少女クラブ昭和九年九月號）

次に私達の最も誇りとするところは、昭和十年三月吾が温泉少年赤十字團は日本赤十字社々々長より全國の模範少年團として表彰されたことであります。吾々少年團員はこの光榮を傷けない様道路愛護等社會奉仕事業に益々努力いたすべく決心いたして居ます。昭和十年度は道路愛護共進會で吾々は、二等賞を勝ち得ました。少年團としてはこの會で二等入賞は最高であり、縣下で吾が團のみと聞きました。吾々は小さい弱い力の持主でありますが、村の爲、國の爲益々道路愛護にあらんかぎりの力を出す決心であります。

感激の改良道路

愛媛縣西宇和郡宮内村鼓尾

二 宮 茂

私の居村の隣村伊方村には小學校が四つも有りました。全村十一ヶ部落に分れて、中央部の高等小學校併置校へ通學し得るのは七ヶ部落、他の豊ノ浦、伊方越、龜浦、大濱の四ヶ部落は遠路の爲と、險惡な道の爲に、各自の部落へ複式校を存置しなければなりません。この四部落の内伊方越龜浦兩部落は、村の北、峠を一つ越した、急斜面の矢島（瀬戸内海の西端）に面した寒村落で、村の中央迄、各々一里半もあるのです。それに、その道は、實は道でなく谷のやうでした。雨降りには泥水が溢れ、雪が降れば吹きこみとなつて大人の膝を没して通れない有様で、天氣の時は、小石と、岩盤の露出と、急阪に造られた粗惡な石段で、普通道路行程の倍の時間を費さねばなりません。た。

そんな道ですから一雨毎に堀れ下がつて、遂には、下駄などではどんな壯者も歩けなくなり、兩方の土面に防げられて雨傘をすらさすことが出来なかつたのです。それを長い年月、日用品や肥料を荷棒で背負つて峠を越

したものです。辛棒たと言へば體裁よく聞えますが、私共他村の者からは何故あんな所に居住しなければならぬのであるかと疑はれ、一つ話の種となり、不自由、困難の例になつてゐたものでした。産業等は勿論發達しない譯です。天然の産物、木材や鑛石、農産物等も海岸線に良港なく、殊に秋から冬にかけては海上が荒れて、船舶を利用出来ず、只のやうな安價で取引されてゐましたのも當然です。

所で、この儘で行く所迄行けば、兩部落は疲弊の極に達し昨今の不況には一たまりもなくおしひしがれる運命にあつたのです。が、茲に一つの問題が村に起りました。

と言ふのは昭和四五年頃の不況の重壓で只さえ、裕福でなかつた村の經濟状態が更に逼迫して來て、諸種の困難に逢着したのでした。そして財政整理の槍玉に一番先に揚つたのが學校統一問題でした。

村でも部落でも幾度か集會が開かれた結果、現在の道では通學不可能と言ふのが十目の視る所でした。

先決問題は道路でした。

ここ迄到達した部落民の自覺意識はたとへ學校統一の問題が勃發しなくても、當然改良さるべきであつた事を覺つたのです。

道路は人の道路である。と言ふ間違つた個人主義的觀念から、道路は全體の道路である事を知つたのです。

道路を改良する事に、部落の集會は一決しました。だが先立つものは金です。道路改良に要するつぶれ地代だけ、他は各自が歩出るとしても、必要でした。

部落有志はその爲に、部落舊家辻新平氏を訪れて、このいきさつ、部落民の決心を語り寄附を懇請したのです。すると辻氏は、現金の寄附は、出来ないが、土地を寄附しよう自分の所有地ならばどこを道路の爲につぶしても、一切無償で提供しよう。遠慮せずに使つてくれと、言われたのです。この感激的な態度は部落民の決心に拍車を加へました。自分も自分もと、有償の土地も低廉に提供され峠迄の道路は略測量が出来たのです。

さて今度は、峠の南側の土地です。これは中央部落民の

所有地が主で而も、耕地面積の人口に比して甚だ狹隘な部落だつたので、つぶれ地代が高く、之加全然手放すことを肯じないものも出る有様でした。が、部落民の決心を聞き美談に感激した村當局があつせんに乗り出し、部落民も、峠の北側の土地代を支拂ふつもりで南側の高價なつぶれ地代に甘じ、村當局も補助して測量が出来たのでした。

今や道路は傾斜こそ急だが、雨傘をさしてすれ違ひ得る廣さに擴大され、尋四以上の學童は中央校へ通學することになつたのです。尋三迄はどうしても遠路の爲分教場を設置しましたが、學校統一だけでも、村全體にとつて、どんなに大きな負擔の軽減になつたでせう。

産物も今や役牛の背に運ばれて、樂々と普通相場に取引されてゐます。部落の人々の難澁は、舊道と共に次第に影を没して行きつゝあります。この農村不況の際に、この部落だけが、整然と生活の大旆をかざして、ゐられるのは、この改良道路のお蔭です。

年に二回の道路修理の歩も、舊道の頃の利己主義的な

影は見えず、感謝と愛護の念に燃えつゝ行はれてゐます。有形の利益は極く僅かでも、日常無形の利益はどんなでせう。それはこうした苦しみの道をかく輝やかしき道路に改良した部落の人々でなければ眞に味はへないのではないかと思ひます。

無題

東京市下谷區金杉下町六八

關根訪藤

道路の改良愛護、と云ふ順序に、文字を並べて仕舞ば至極簡單であるが、之に伴ふ經費と犠牲とを考ふる時は、容易に斷行し得るものではない。

しかしながら、國家百年の大計を樹つるとき一日早ければ一日の長あることを見逃してはならない。

舊市内に就ては非を打つ點がないまでに完成して居るから、一例として、去る大正十四年三月、舊郡部であつた日

暮里の大火を擧げて見たいと思ふ、餘り前置が長過ぎる嫌もあるが、其當時の模様を現はす爲には止むを得まいと思ふ。

此時の火災には三河島町も相當の被害を蒙つたけれども、日暮里町の大部分を烏有に歸したことに依て、人之を日暮里の大火と稱して居る。

當時私は日暮里町元金杉に住んで居つて其處から下谷區役所に通つて居つた。春とは申せ木枯氣味の西北風が其日も朝から吹き荒んで居つた。

突然ガソリンポンプのけたたましいサイレンに驚かされ、且つ其方向が皆北へ北へと驀進するところから何となく不安の念にかられて居ると、誰云ふとなく火事は又しても日暮里らしいとのこと、左様に此方面のそれは有名なものであつた。

上司の了解を得て歸宅すべく、三ノ輪行電車に乗つたが坂本町二丁目で立往生、根岸病院の附近に到れば黒煙渦巻く中を避難者と彌次馬のゴツタ返す人波で、ついそこの吾

が家と雖も容易に近づくことが出来なかつた、稍とあつて其筋の必死の消防功を奏し、今日の日暮里町一丁目先でさしもの大火も喰ひ止められたことは不幸中の幸であつた。

大火の原因は

烈風に煽られたことにも異存はないが、當時の日暮里、三河島は人口の密度に反して道路らしき道路なく、従つて配水網も完備せず、折角の消防機關も充分に其能力を發揮し得ざりしことも其責の一半を負はねば成るまい。

何んな順序で復興したか

一難來たれば一難毎に愈々發奮し、益々努力するは吾が民族の個性であり、美點であるのであるが、我が日暮里三河島町民諸氏も亦斯ばかりのことに意氣消沈して、徒らに歎聲を洩すものはなかつた、加之、火災が何だ、より以上今後吾人に肉迫するものは、經濟戰であらうことは何人も否定することは出来まい。

此戰こそ全智全能を盡して争はねば成らぬと猛然起て此

無形の大敵に向ひ、所謂自力更生の旗幟を翻ひして堂々と宣戰を布告したのである。

先つ道路の改良

に着手し幅員も最大限度まで擴張し、一意完成に努めた所以のものは凡如何なる戰爭に於ても機先を制したものが最後の勝利者であるからである。

殊に經濟戰に於ける道路の善惡は實戰に於ける武器の優劣に比すべきもので、如何に勇猛精悍なる將兵と雖も最新式武器の前には抗し難きことは、彼の伊エ戰爭に見るも餘りに明白な事實であらう、機を見るに敏なる彼氏等は忍び難き犠牲を忍び、耐え難き經費を耐えて、改良、完成、美觀の三段式陣容を調へて仕舞つた。

見よ町は碁盤を列べた如く、無數の道路は縦横に通じ、人は人道に波打ち車馬は車道に溢れて文字通り市をなして居るではないか。就中帝都の美觀として誇るに足る環狀線に至りては曠として野の如く、坦として砥の如き感に打たれるであらう。

偉なる哉日暮里、大なる哉三河島

而して町は日毎に榮え、人口も亦日毎に加はる、宜なるかな商工業の發展。

日暮里銀座と三河島大通り

花は櫻木銀座は京橋と任じて來たが、今や銀座異變の時代であつて、曰く戸越銀座、曰く小山銀座、曰く千住銀座、曰く何々銀座、と繁華の巷に銀座の出現すること敢て珍しくないのである。

よし、それが本家のそれには及ばないにせよ、臆面もなく日暮里銀座と名乗を擧げた其意氣や又壯となすべきである。

殊に三河島大通りに至りては警察署を始め劇場、大店舗軒を並べて美觀を呈し、遙に王子方面に去來する自動車はさながら蜘蛛の子を散らせし如く名筆の繪卷其儘である。

しかも十年前迄原野あり沼池あり至る處に空地のあつたことを知る者には誠に今昔の感に打たるゝ次第で、交通文

化に先鞭をつけた其認識の深さを揚げて賞せざるを得ない。

嘗に此方面のみならず、各自の生命線である道路に重きを置き、或は改良、或は修理を施して其効果を擧げ、又は擧げつつあるところも少なくないであらう。

道路は無言の客引

工場地帯は云はずもがな、其他の街路に於ても道路の善悪が如何に客足に影響を及ぼすかは敢て多言を要せざるところである。上流社會は別として鳥渡した買物は主婦か女中の役目であるが、値段の大差なき限り多少は廻り道にもせよ履物の汚れぬと云ふ結構な方面に足を向け易いもので、一度が二度、二度が三度となり遂に顔馴染となるのであるから顧客と飼ひ鳥は手放さぬ様心がけねばならない。要するに客を引くも逃すも道路に始めて道路に終ると云ふ事程左様に其使命や重且つ大なるものであるから、一步の泥濘、一掃の塵埃にも細心の注意を拂はねば進で戦線を占め退ては店頭を守ることが決して出來ないのである。

道路改修の結果が利益を齎らした實話

千葉市登戸二八七

渡部英三郎

千葉縣香取郡八都村は、水郷の名勝小見川町から南へ約一里、純農村の姿相を有ち續けてゐる村である、戸數七百五十。

從來道路に恵まれず、小學兒童の通學等にも極めて不便な状態にあり、殊に冬期の如きは下級生の通學が、全く不可能であつたので學區なども三區に別れ、僅かに百五十戸ばかりの村に三つの獨立小學校が設置せられてゐる有様であつた。然るに昭和七年以來時局匡救事業が實施せられてから道路の面目が一新し交通情勢に劃期的な進展を招來したのである。右道路改修の結果八都村に齎らされた經濟上及精神上（村治上）の利益は大體左の通りである。

一、小學校合併に因る利益

從來、村役場所在地に在る八都尋常高等小學校の外、舊部區に八都第一尋常小學校、仁良區に八都第二尋常小學校が獨立して存在し前者には六學年以下約百三十人の生徒が收容され、後者にはこれも六學年以下約二百十人の生徒が收容せられてゐた。かくて小學校の合併は本村宿年の懸案であつたが、殊に第二學區より村役場所在地（八都尋常高等小學校）への通學道路粗惡にして通學困難のために地元民の強硬なる反對に遭ひ合併することが出来なかつた。第一學區は通學困難の程度が稍少く隨つて合併必ずしも不可能ではない状態に在つたに拘らず、地元民は第二學區との權衡と從來からの傳統を主張して、これまた強硬に合併に反對して來たのである。

然るに第二學區地方（仁良神生）と村の中樞地方とを連絡する町村道神生仁良線延長約五千五百米の改修が實施せられた結果（昭和七、八年度、工費六、七〇〇圓）少くとも上級生（五、六年）の通學には左まで困難を告げざるに至つたので、地元民は

生徒の一部合併を承認し、同時に第一學區民も從來の行懸りを捨て生徒全部の合併を承認したので、左の如村教育費の減額を見るに至つた。

昭和十年度 昭和十一年度 減

二〇、七七八圓 一六、一四〇圓 四、六三八圓

その内容は左の如くである。

人件費	三、三八七圓
雜給	四三八
需要費	六〇三
修繕費	二一〇
計	四、六三八

右減額の一戸當は六圓一八錢となる。

小學校合併の結果は、單に村財政上の利益のみに止まらず、村治上にも喜ぶべき傾向を生ずるに至つた。即ち學區が分裂してゐた結果、從來兎もすれば、村民の間に融和の氣分を缺き、何か問題を生ずる毎に對立の傾向を蘊釀し勝ちであつたが、最近それが著しく緩和せられて來たのである。

二、青年教育の進展

從來八都村青年學校に於いては豫算の關係に主因して女子部の設置がなく、女子は兎角時勢の進運に取り殘され勝ちであつたが、小學費の減額を直接の動機として、女子部が新設せられ、豫算七六三圓を以つて専任教諭を置き、村内の女子を教育し得ることとなつた。目下青年學校女子部の生徒百四十六人。

三、山林の地價騰貴

舊第二學區地方は有名な山林地帯であるが從來、交通が極端に不便のため、林産物の搬出困難にして、それがため山林の地價の如きも極めて低廉であつた。然るに道路改良の結果、その山林地帯に於けるトラツクの通行が可能となり、林産物資の運搬費が低下したため沿道地帯の山林は一町歩平均約五十圓の騰貴を見るに至つた。地價騰貴地の面積は約二百八十町歩、總騰貴額實に一萬四千圓に達するものと推算せられ、地元民をして痛切に道路の效用を感じしめつゝある有様である。

四、農産物資の運賃低下に因る利益

右路線改修の結果、地元（仁良區）移出入貨物の運賃を低下した結果、それによつて受ける地元民の利益は左の如くである。同地方の主要産物は米、繭、麥類、甘藷等であり、同地方へ移入せらるゝ主要貨物は肥料であるが、先づそれ等の單位の低下を示せば、

仁良區より小見川驛迄約二里の間に於ける運賃低下

種類	改修前の運賃 一俵に付錢	改修後の運賃 一俵に付錢	低下額 錢	摘要(低下の割合) %
糸	二五	九	一六	〇・六四
繭	二〇	一二	八	〇・四〇
麥類	二五	九	一六	〇・六四
甘藷	二〇	八	一二	〇・六〇
肥料	二・一	一・四	〇・七	〇・三三
其他				

即ち仁良區から小見川町（地方物資の小集散地）に至る僅か二里の間に於いて右表の如く米一俵に就き一六錢、繭一俵八錢、麥類一俵一六錢、甘藷一俵一二錢、肥料一貫目〇・七錢といふが如き著しき運賃の低下を齎らしてゐるのである。

仁良區及神生區一部に於ける移出入貨物量及運賃低下總額（仁良地方より小見川驛）

種類	移出入貨物量	運賃總額(改修前)	運賃總額(改修後)	差額	摘要
米	三〇〇俵	五五〇・〇〇	二六〇・〇〇	三三〇・〇〇	
繭	二四二俵	四八二・〇〇	二八二・〇〇	一九〇・〇〇	
麥類	五五俵	一四八・五〇	五五・五〇	九五・〇〇	
甘藷	四二七俵	八三・四〇	三三・五〇	四九・九〇	
肥料	八六四貫	一八二・四〇	三〇・六〇	一五一・八〇	
其他(木材其他)	約	一〇〇・〇〇	四〇・〇〇	六〇・〇〇	
合計		二七五・七〇	一三〇・七〇	一四五・〇〇	

(備考) 「其他」には木材・薪・野菜等を含む。

主要貨物の各單位につき前表の如き運賃の低下があつた結果、仁良區及それに隣接せる神生區の一部のみにも、一、六二一圓の利益があつた譯である。

五、新らしき生活の手段（薪・野菜の行商）

該路線は改修以前に於いては數ヶ所に急坂があり、車馬の通行が全く不可能にして僅かに歩行し得るに過ぎざる状態に在つた。随つて、野菜等は賣買價值を有せず、單に自家用として栽培せられるに過ぎなかつたが改修後地元民は牛馬リヤカーなどを利用してこれを附近の小見川町へ搬出し行商に新らしき生活の方途を見出すものを生じて來た。

これは一定の時期以外は殆ど現金收入なき山村の生活を潤すものであつて、地元下層生活者に活氣を與へつゝある有様である。また同様な結果を下層生活者によつて山林から拾ひ集めて、町へ賣り出されてゐる枯松葉、枯松枝等にも見出される。従來、地元民が松杉の林などから拾ひ集めてゐたそれ等の枯松葉や枯松枝などはたゞ燃料として自家用に供せられるに過ぎなかつた。随つてこれを賣つて收入を

求めるといふやうなことは出来なかつたが、運搬に利便を加へた結果、市場價值を生ずるに至り、野菜同様これを小見川町地方に賣り出して生活の途を求めるものを生じて來た。それ等のことは本村、中層以下の生活者には好ましき影響を與へつゝあるのである。

六、町村自治に及ぼした影響

要するに本路線改修の結果が八都村の經濟上に及ぼした利益中明かに數字を以て示し得るものは二〇、二五九圓（山林地價の騰貴額一四、〇〇〇圓村教育費の輕減四、六三八圓運賃低下による利益一、六二一圓）に過ぎないがその中運賃低下による利益と、村教育費の輕減による利益とは毎年繼續的に得らるべき利益である。其の外にも尙、今直ちに數字を明確に示し得ざる利益も相當大なるものがあることは、野菜・薪の行商の例などによるも明かである。

一面道路開通の結果齎らされた地元民と他の地方との間に於ける精神的融和が村治上にも種々好ましき影響を及ぼ

しつゝあることは前にも觸れた通りであるが、その具體的な現はれを前に述べた二小學校の合併や現在工事進行中にある八都尋常小學校々舎の建築等に見出される。

二校合併の結果校舎の狹隘を感ずるに至つたので、同村では建築費豫算五萬五千圓を計上して昭和十一年四月より工事に着手してゐるが將來その堂々たる校舎を目撃する者はそれが、道路改修の結果であつたことに想到するであらう。

他の一面に於いて、地元民の道路の效用に對する認識が深められた結果、それに愛護せんとする精神が旺盛となり彼等は自發的に道路愛護會を組織して道路の愛護に従事してゐる。この協同作業から來る精神的融和も町村自治上好ましき影響を齎らしつゝあるので、村當局をして村の明るき將來を豫期せしめてゐるのである。(昭和十一・八・三一)

竹さんの働き

群馬縣新田郡綿打村上田中

新井熊次

農村救済土木事業によつて各地の道路は改良されたり、又新しく工事された。

群馬縣の東南部綿打村でも、三年計畫のものに各大字の道路改良に着手したのが今から四年前であつた。大字上田中でも二千米許りの道路の改良工事を行つた。今までは一寸雨が降つても、ひどい泥濘となつて、自轉車などに乗つては通ることも出来なかつた道路、又餘りにも狭くて、自動車はもちろん入らず荷車を引くのさへ困難な道路であつたのが、今日では立派な道路となり、自動車も入れれば雨が降つても泥濘となるやうなことはなくなつて、村の人達は非常によるこんでゐる。だが、この道路がこれまでにな

る四年の間には一つの尊い人間の働があつたのだ。

今から四年前の一月着工したものであつたが雨や雪のため妨げられ、出来上つたのは四月の半頃であつた。農民達は出来上つた道路を眺めて大變氣をよくしたものだつた。然しそれも束の間で、草はぐんぐん伸びるし、石は散つて田の中へ入る。荷を澤山積んだトラックが二三回通る中に深い轍が出来る。道路の端はくづれる。全く手のつけられぬやうになつた所が、あちらこちらに出来て来た。だが農作や養蠶の忙しい時期であつたためか、誰一人として修路しやうとする者はなかつた。

或朝早くこの道路上に竹さんの姿が見られた。竹さんは此の村に貧しく暮らしてゐる五十ばかりの人であつた。竹さんは人づきがわるくて（餘りにもがんこなため）他人からは餘り相手にされてゐなかつた。その竹さんが道路のこわれた所をなほしはじめたのだ。はじめのうちは餘り人目につかなかつたけれど三朝五朝と続いたので、村人の中にも竹さんの行を知る者が出来て来た。竹さんは道路に生え

た草をとると。深い轍の中へ田の土をとつて入れ平にし、其の上に石をかきのせる、端の方へ散つて田や堀の中へ入りさうになつた石をかきあげる。竹さんは毎朝々々かうしたことをくりかへした。

村人達は「竹さんはお金をもらつてやつてゐるんだらう。只ではあんなことは出来まい。」といふ者もあるし、「竹さんはものずきだ。忙しい時にあんなことをする。」といふ者もある誰も彼も嘲笑的な態度でみる者許りで、共にやらうとする者は誰一人居なかつた。自分達が利用する道路であるのも忘れたやうに。竹さんはさうした世人の言葉は聞えぬかのやうに道なほしをつづけた。さしものにこわれた道路も二十日許りで一通りなほされた。が又後から後からとこわれていく。草は生える。石は散る。

今度は竹さんは日曜日、日曜日に道路へ出て行つて草をとつたり、石をかき入れたり、わだちを埋めたりした。其の中に竹さんの仕事を手傳ふ者が出てきた。それは小學生の一團であつた。此の村の兒童は毎月一日十五日に神社の

境内を掃除するやうに訓練されてゐる。子供達は午前五時になると、ホーキバケツ雑巾を手に手に村の鎮守様へ集まつて行く。三十人許りの子供達は自分の部署について清掃を行ふ。終ると鳥居前に整列して伊勢大廟と宮城遙拜をやり、神社の禮拜をすまして家に歸るのである。これが團長の指揮によつて規律正しく行はれてゐる。

或る朝のことであつた。團長が家へ急いでゐる途中、竹さんが一心に道なほしをしてゐるのに出逢つた。「おちさんお早う。」「やあ、お早う。神社掃除はもう終つたのかい。」「あゝおちさんはよく道なほしをやりますね、一人では骨がれるでせう。」「なに、氣まゝにやるんだからな、まあ氣長にやつて、此の道を立派にしてみたいと思つてゐるんだ。お上で澤山なお金を下すつてこしらへて下さつたのだから、こわれたまゝにしてをいてはお上に對して申譯がないからな。」「おちさんはきせるに煙草をつめながら話をした。マツチをすつて火をつけた。團長は竹さんの心に感激したのであらう。」「おちさん。今度はいつやるんです」この

つぎの日曜日だ。」「おちさんは煙を吐いてからこういつた。團長は元氣よく歸つてゐた。竹さんは一寸休んで又仕事をはじめた。

翌日團長は學校の放課後、高等科の生徒を集めた。そして竹さんの考を話してから、「竹さんの仕事を手傳ふ」ではないかと提議した。子供達は顔を見合せた。お互の氣持を知るために。と一人が大聲で言ひ出した。「さうしたことは俺達にも出来る。村のために、道路のために竹さんの行を生かすために大いにやらう。」「そこにゐた者は皆賛成した。そして次の日曜日から五年以上の子供に鎌と鍬をもつて道なほしに出るやうに話をするといふことを相談してわかれた。

次の日曜日の朝子供達が出てみると竹さんは村はづれのところにゐた。子供達は竹さんの所へかけて行つて、「お早う。」「と口々にいつた。」「今日は私達も一緒にやらせて下さい。」「と團長はいつた。竹さんは子供達の行に感動して只「有難う、有難う。」「とくりかへすばかりだつた。子供達は竹

さんにまじつて一心にはたらいだ。草を取る者。轍をなほす者、石をかきならす者。竹さんは親切に子供達を指揮してゐる、かうした事が二年もつづいた。道はしつかりしてきた。雨が降つても泥濘となることもない。トラツクが入つて來ても深い轍は出來ない。時に轍が出來ることがあつてもすぐなほつてゐる。

今までは自動車の入らなかつた村。荷車を引くにも困難した村人、米を賣出すにも麥を賣出すにも縣道まで運ばねばならなかつた。肥料を買ふにも縣道まで取りに行かねばならなかつたのが、今では軒先まで自動車が入つて來て、品物をもつて行つたり、もつてきたりする。一寸した雨でも困るほど泥濘となつたのが、今ではさうしたことはみることも出來ない立派な道路となつた。村人は今日ほんとうに此の道路の出來たことを此の上なくよろこんでゐる。

父と道路改良

北海道龜田郡戸井村

後 藤 利 一

私の父は非常に頑固で我慾の強い網元でしたが、昭和四年の夏より急に心境の變化を來し、後には村の佛とまで言はれるやうになつたのです。私は何故父がそんな大變化をしたか、其の原因をお話して道路改良の必要の重大さを感じて戴き度いと存じます。

部落長の宅へ詰め掛けた人々は貧しさに寒れてゐた。六十の坂を登りつめた幸田部落長は暗い灯を背に負つて立上つた。人々の顔を一通り見廻すと諭すやうな口調で呼びかけた。

『皆さん、今晚集つて戴いたのは、御承知の本村へ通ずる道路——この改良愛護に就いての相談ですが……。』

と、道路不備の爲の經濟的損失、兒童通學上の困難、昨年度に於ける道路崩壞のための不慮の災難、日常生活上の不便等實例に依つて説明され、最後に近時道路は一層缺壞してゐるから漁期を目前に置いて置いて氣の毒ではあるが此際奉仕をして戴き度いと結んだ。

聽衆は黙つて一言も發し無い。假令賛成したにしても網元の許可が無ければ、一時間の暇も晝は自由にすることが出来ないし、又二年來の不漁に村人は向上、意氣、努力の立派な感情を忘れて、只々日々の苦しさ、貧しさに荒んでゐた。

見開かれた眼と言ふ眼には水のやうな冷さと嘲笑に押し上げられた疑念の光がある許りだつた。

其の時である。板戸が激しい音を立て、壞れさうな勢で開いた一座の人々ははつとして振返つた。

其の視線を突き返すやうな權幕で立つてゐるのは網元剛造（私の父假名）であつた。

『手前達は何を相談してゐやがるんだ。道路が可愛いか、

自分達の口が可愛いか、考へて見やがれ。漁師なあ、一回勝負で喰つて行く商賣だ。明日にでも魚群が来るかも知れねえんだ。それを逃して見ろ！俺達の口は干上るんだぞ。目の前に迫つた漁期を見やがつて道路改良も、へちまもあつたものか。俺の漁場に顔を出してゐる奴は一人でも行つちやあならねえぞ。』

剛造は奔流の堰を突切つたやうな勢で喋ると、ぶいと出て行つた。

出水の跡のやうな重苦しい沈黙だ、人々は口をセメントで塞がれたやうに、一語も發する者が無い。

相談會は無言の裡に流會になつてしまつた。

×

×

その夜は風雨であつた。漆黒の空が果しなく塗り籠めてゐる。

父剛造は一合許りの焼酎に顔を眞赤に染めて、今日の道路改良の相談會を罵つてゐた。

母は四つになる末子の良子を寝かさうとしてゐたが、仲

々寝ないらしい。と母がそはくして出て来た。『貴方何だ
か良子が變ですよ、頭が火のやうに熱いんです。幾度も眼
を吊上たり嘔吐をするんです。一寸見て下さいね』何、良
子が、どうしたんだ！』父は、あつと立上つた。

良子は唇の色を紫色に變へて、ぐつたり床に寝てゐる。

父は額に頬を當てゝゐたが『熱い、ひどく熱い。焼けるや
うだ。』と唸つた。

私は直覺的に先生から訊いた疫痢の事が思ひ浮んだ『父
さん、疫痢らしいですよ』『何疫痢』『え、違ひありません。
疫痢は發病以後二十四時間が最も危険だと先生が教へ
て呉れました。さあ、早く醫者に、醫者に見せなくては』
私は自身の言葉に掻き立てられて興奮してゐた。

父の顔は蒼白だつた。母はおろ／＼涙聲で『貴方、早く
良子を、醫者へ！』と叫ぶ。但し其の醫者であつた。一里
以上も離れた本村迄行かねばならない。呼びに行つたつて
来る迄には相當な時間がかかる。時間は既に十五時間も経
てゐる。父の蒼白な顔は悲痛に硬ばつて、手がびく／＼瘻

撃してゐる。父は思ひ切つたやうに合羽をぐいと着ると、
毛布がらみ良子を横抱きにして、私を怒つた。『提灯を持つ
て前に行け！』私は脱兎の勢で、マントを引被つて外に飛
び出た。横なぐりに吹きつける波吹雪に提灯は幾度も消え
さうになつた。其の度に父は、あつと驚愕の叫びをあげて
立上つた。悪路、悪路！ 足の踏場に迷ふ穴、溝、道狭し
と許り寝てゐる崩れ岩石。雨水は道に溢れて流れる。黒く
濁つた泥濘が、待ち伏せるやうに造られてゐた。

全く進行は遅々として捗らなかつた。父は焦燥に驅られ
ては泥濘に落込んだり、足を傷つけられたり、地獄の苦し
みだつた。

嗚呼、何と言ふ悪路の恐しさ……。三時半餘りの貴重な
大事な時間は、只に道路愛護、改良をせざりし爲に捨てや
うとは……。

泥まみれ、汗まみれ、死の苦しみを越えて本村の醫師の
門を叩き、漸く診察して貰つた時の嬉しさ――泣く思ひだ
つた。

父はがつくり待合室に崩れてしまつた。私は咽喉が締められるやうに乾き、心臓が今にも破裂しさうだつた。私達にはそれは長く感ずる十分であつた。

醫師は振り向くと『お氣毒ですが、一時間程遅れました。』

父は言葉も忘れたやうに呆然としてゐましたが、大粒の涙がポロ／＼膝に落ちた。

父は變つた。全く性格が一變した。道路改良愛護は父の信仰への道であつた。父は自ら先頭になつて、漁場の人々を連れ奉仕の仕事をした。其他公共の仕事は自分の責任である如く感じてゐた。

人々が色々と感謝の辭を述べると、きまつて『只、良子の供養です。良子は私の怨のために殺されたのです。道路だけは何をおいても立派に完全にしなくてはいけないですよ』と答へる父だつた。

道路は見違へる程立派になつた。苦い實例は百の說法より力があつた。村民は擧つて奉仕の汗を流したが、餘慶は

泉のやうに湧いた醫師の出張所、トラック乗合自動車の開通通學の安全經濟的文化の恩恵は百般に涉つて限りなく湧いて來るのに驚いたのである。

磯濱街道の驚異

水戸市天王町

淺香小兵衛



『水戸を離れて東へ三里、浪の花散る大洗。』で水戸から此の地磯濱町へ往く道路を磯濱街道と呼んで居る。近代的制作方法で謂へば、府縣道水戸磯濱大洗線を併稱した區間である。距離も十四軒三といふことになつて居る。

此の道路は水戸と三濱地方（磯濱、湊、平磯との總稱）とを緊密ならしむる重要な交渉の役割を持つて居ることは、磯節の初めも今も遷りはない。然らば何がそうさせたか。水戸は縣下の御城下町であり、三濱地方は常陸海岸四

十里の中樞地に在る魚獲地であり、船舶の碇繋地であるからである。そればかりでない。三十里を距てた帝都の眞中で、太平洋のサンマやイワシが臺所を賑はしマグロが食膳に載るのも屢々で、此の貨物自動車だけでも年中毎日二十臺にも及んで居る。此の外海水浴場も點在して居るから群馬や埼玉、栃木等の近縣の人達が殺倒して来る。また之等の地方から曉の夢も見やらぬ可憐な兒童達の修學旅行の一隊も春秋の頃には度々見受けられる。水戸から關東三社詣りとして知られた鹿島、香島、息栖の各神社へも此の道路を利用するし、農業茨城が誇りとする米麥の重要農産物は陸續として本道路を濶歩する。之等の情勢が相倚つて磯濱街道が複雑夥多となつたのである。

◇
由來水戸と三濱地方には地方鐵道と軌道とが二線敷設されて居るのであるが、あらゆる交通方式に適合する道路の存在には何れも閉口して居る。のみならず貨物自動車の普及が益々兩機關の利用を疏外する機運を辿つて居る。従つ

て此の道路は縣下の首位を占むる交通量を示して居ることは申す迄もない。

茲で一吋自動車交通量を見ると、昭和三年十月には百四十七臺、八年六月と十月との平均では二百七十五臺、十年三月には四百五十六臺になつて居る。何れも農閑期で、また海に縁の遠い時期であり、偕樂園の梅も散つた頃である。

斯様な次第であるから、此の道路を改良することは自然の趨勢であり、時代の要求である。縣は比較的線形も悪く幅員も狭い區間を昭和六年度から九年度迄に繼續的に連續して、有效幅員を十二米に、延長八軒を改良した砂利道ではあるが、坦々として居るから諸車は聊かの不安もなく清新に走つて居る。

此の改良の階梯に付ては一種魅力的な趣きがある。即ち昭和六年度は失業救済、七年度は産業振興と、折柄地方農山漁村を匡救する爲に現はれた農村振興、八、九年度も矢張り農村振興事業として施行したのである。これを見ると

丁度政府の道路助成政策の變遷史であり、縣の道路改良計畫の展覽會である。



本道路の改良事業費は十二萬七千九百圓といふ精算額となつて居る。尤も磯濱街道の全體としては、行く往くは、一橋梁の架換と、全線の路面鋪装も考慮せねばならぬのであるが、茲では今迄に投下した資本を對象に、經濟的立場から其の起業價値を判斷して見やう。

固より道路改良は公共事業たるの性質上經濟的見地からのみで其の價値判斷を律すべきでない。また經濟的といふても單一簡易ではなくあらゆる角度から綿密に觀察することを要するは言を要しない。併しながら茲では零細な學問的研究に亘ることを避け、極めて常識的に大衆が理解し、異存なき程度に其の効果を掌握して見ることとする。

先づ經濟的利益として算定し得るものは、自動車運賃の低減である。之はガソリン消費量、輪帶費、車輛修繕費の節約等道路交通經營者に露す利益であつて、此の結果がや

がて公衆に對する運賃の低減となるのである。今昨年九月の統計を掲げて見る。

◎自動車運賃の低減(自水戸驛至磯濱町)

區別	自動車交		改修前運賃		改修後運賃		低減額
	乗用(臺)	乗用(人數)	貨物(臺)	貨物(人數)	貨物(臺)	貨物(人數)	
計	四三、四三三	二八八、三五八	四、三三〇	二、一〇〇	三、四〇五	二、一〇〇	四四、六三三
池ヶヶ野	四三、四三三	二八八、三五八	四、三三〇	二、一〇〇	三、四〇五	二、一〇〇	四四、六三三
磯濱	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

即ち竣工後間もない時期の調査でさへ年額四萬四千六百三圓と云ふ自動車運賃が低減されたのである。此の金額は茨城縣の本年度に於ける經常部の土木職員俸給金額を賻つてなほ餘裕ある數字である。



次は、交通障害排除に因る自動車の餘剰時間の活用である。從來の道路は有效幅員四米五でお剩けに屈曲が多かつたから、自動車の行き違ひや牛馬車を追越す際には屢と速

度を落さねばならなかつたし、時には自動車荷車の従僕の様に行列する奇觀を呈する場合もあつたが、新線はこれらが殆んど除去されたから、二十五哩の經濟速度を維持しつゝ走行しても起終點で五分間を短縮し得ることゝなつた。

此の時間短縮の利益を享受するは各種の自動車であるが、乗合及乗用車は暫く別として、貨物自動車に付て検討しよう、交通する貨物自動車は四萬二千三百四十輛であるから、此の五分時即ち二十一萬千七百分が餘剩時間である。これは毎日九時間四十分と云ふことになる。之を五時間だけ活用するものとし、一時間の運賃を二圓とするときは、毎日十圓となり年額三千六百五十圓の利益であつて、之は僅か十圓で書記官又は地方技師の三等二級に及ぶ金額である。之を運賃低減額に合せると、毎年四萬八千二百五十三圓の利益を齎すのである。

投下資本に對する利率を年六分とするときは其の利子は七千六百七十四圓で之に毎年の維持費三千五百萬を加算す

ると一萬千七十圓である。之を前記の利益から控除すると結局その純益は三萬七千七十九圓で、建設費に對し二割八分の利廻りとなり、三年三月で元資を銷却し得る。若し夫れ現行の如き低金利政策時代では利廻り三割一分、三年で元資を完済し得るのである。

本道路の改良は公企業として爲さざるべからざるを爲したものに過ぎないが、經濟的企業として誠に恰向な多分に未來性と弾力性ある眺向きの仕事を爲したものである。正しく此の眞實は他の如何なる公營事業にも對比すべくもない爽やかな驚異であらう。がしかし此の明朗な眞實を心ある爲政者は何と見るであらう。

× × × × × × × × × ×